

みさかえの園だより

第13号 2012年10月
発行所
社会福祉法人 聖家族会
発行責任者 中山和子
編集 法人事務局
☎859-0167長崎県諫早市
小長井町遠竹2747-6
☎0957-34-4520
FAX 0957-34-4521
[年2回(7月/1月)発行]

福祉のこころ

社会福祉法人 聖家族会 理事長

中山 和子



「みさかえの園の福祉の根本理念は何ですか」と問われた時、一言で言えば「キリスト教的愛と奉仕の精神に基づく人命尊重である」と答えます。これを幅広く具体的に述べたいと思います。

歴史学者のアーノルド、トインビーは言っています。『今日的な世界状況は亡びへの哲学を奏でている』と。さらに『今日の人間にとって何より大切なものは、人間の肉体的生活、つまり精神生活に心を向ける事だ』と言っています。確かに様々な分野における科学技術の進歩、機械文明、物質文明の発達は恐ろしい程です。すべてがコンピュータシステムにくみ入れられ、それが何でもやってくれるような時代になりました。

然し、トインビーはこれらの物質文明は亡びへの哲学を奏でているのだから、人間は亡びない大切なもの、即ち人間の心、人間の精神生活に心を向け

るべきだと言っているのです。

この言葉は、昨年東北大地震と、それによる大津波の国家的大きな災害に見舞われた日本を見る時、心すべき大切な言葉であると私は考えさせられました。最新の技術を用いて絶対事故が起らないように設計、建設されたはずだと思ふ原子力発電所も破壊を受け、日本のみならず世界的、あるいは地球的と言ってもいいような汚染の心配にさらされています。

その中であつて死者、行方不明者のおびただしい数に言葉が出ないほど胸が痛みます。避難生活の大変さをテレビで見るとき、言うべき言葉もない位でした。然し、新聞、テレビでも報じられていくように、この様な大災害の中にあつて多くの罹災者の人たちが、避難所の大変な生活の中にあつて、お互いに忍耐し、助け合い、配られた食べ物を分かち合つて生活している姿に涙せずにはいられません。日本

人の精神生活の高さに本当に心を打たれました。

イエス・キリスト様がある日言われたお言葉が、聖書の中に記されています。律法家が『先生、どの掟が律法のうちで一番重要ですか。』と尋ねたと、キリスト様は答えて『心を尽し、精神を尽し、思いを尽して、あなたの神である主を愛しなさい。』これが一番重要な第一の掟である。『第二もこれと同じように重要である。隣人を自分のように愛しなさい。』(マタイ22・36)

私は福祉の心の一番の根本はここにあると思います。人間も含めて宇宙万物を創りそれを支配しておられるのは神様です。人間をはじめすべての生きているものの生命の与え主は神様であり、神様は特に人間の生命を愛し、重んじ人間が生きて生命を保つことが出来るよう、私たちが毎日呼吸している空気をはじめ、食べ物、飲む水、それに四季の変化、朝、昼、晩と日中の時間の変化、その他至れり尽くせりの方法を与えて下さっているのです。この神様から創られ、神様が愛しておられる人間の尊い生命を人間同志が傷つけたり殺したりする事は絶対にお望みになりませんし絶対許されません。

それ故神様は何よりも人間の生命を大切にし、愛する事を望んでおられます。隣人を自分のように愛しなさいと言う愛の掟を、神様を愛する事と同じくらいに重んじておられ、そしてその心を人間に与えておられるのです。ですから人間は自分の目の前に生命の危険にさらされている人を見たとき、助けなければならぬと言ふに止むにやまれない気持ちに押しやられて、自分の事は忘れて救いの手を差し伸べます。

その実例はたくさんあります。

一人の看護師さんが、お産の為に田舎の自宅に帰って無事に出産し産褥の床にしていた時、表の方で子供たちのガヤガヤした声がするのです。何事かと縁側に出たところ自宅の前の小川で、丁度雨期で水かさ一杯になっていたその川に一人の小さい子供が誤って落ちて溺れかかっているというのです。とっさに自分の事は忘れて、その場に走り、川に飛び込んでその子供のいのちを助ける事が出来ました。

夏になると海の事故で、溺れかかっている人を助けようと近寄って、その人を助けたものの、自分は波にのまれて死んでしまったという痛ましい実例を私たちはよく聴きます。

生命の危険にさらされている人を救うために、自分の生命を犠牲にする、これは福祉の心の頂点とも云うべきものではないでしょうか。ともかく人間は神様から生命に対する愛と尊重、畏敬の念が与えられているので、自分の目の前に死に直面している人がいるのを見た時、やむにやまれぬ思いにかり立てられて自分の事は忘れて助けの手を差し伸べるのです。

日本で、始めて重症心身障害児の病院施設をつくられた小林提樹先生は日赤病院の小児科部長をしておられた時、ご自分の所に一人で飲むことも、食べることも、動く事も出来ない、また酸素吸入しなければ呼吸もよく出来ないような寝たきりの重症児が何名か連れて来られ、そのお母さんたちから『この子供たちの生命を助けて下さい。』と頼まれたのです。先生は外来でしばらく診ておりましたが、それには限界がある事がわかり、お母さん方と一

祈り

第二めぐみの家
園長 齋木初江

「お家のお父さん、お母さんのために、アヴェ・マリア……」マリア

様が大好きな利用者さん達は、朝から大きな声で祈りを捧げています。

病気の人、苦しみ悩んでいる人、困っている人達のことを忘れずに祈る利用者さん達の姿はとても美しく、マ

リア様もきつと喜んでおられると思います。これも今まで利用者さんと

ともに歩んでこられた先輩のシステムで、職員の方々の賜物と思

い感謝せずにはいられません。

法律がめまぐるしく変わり、常に情報を得ていかなないと難しくなる今

の時代、原

点に戻って

考えてみる

と、みさか

えの園は、

やはり祈り

によって成

り立ってい

ると、利用

者さん達の聖歌の歌声が聞こえてくる度につくづくそう思います。

今年の一月に新体系に移行し半年

以上経ちましたが、まだまだ課題が

多く試行錯誤している状態です。し

かし忘れてはいけないことは第二め

ぐみの家の主人公の利用者さん達に

職員は毎日、全力を尽くして支援し

なければならぬ、ということですが、

当たり前のことですが、課題の方に

目がいき過ぎて、支援がおろそかに

ならない様、常に自分自身を見つめ

る事が大切だと思います。それには

やはり聖母マリア様のお助けが必要

です。創立当初からマリア様に見守

られ、助けられながら歩んできた第

二めぐみの家。これからも利用者の

皆さんと職員が一つとなつて聖母の

ご保護のもとに幸せな日々を送るこ

とができますように。今日も、マリ

ア様を賛美する歌声が聞こえてきま

す。

緒に厚生省に訴え世論に訴えてようやく重症児の施設がつくられるようになったのです。自分の目の前にそのま

ま一人では生きていけない人間がいる

人の手を借りて助けて貰わなければ死

んでしまう人がいる。その時、その人

間を目の前にした時どうかして助けて

生命を守らなければならぬという、

やむにやまれぬ気持ちに押しやられて

救いの手を差し伸べるのです。ここに

福祉の原点があると云っておられます。

キリスト様が、神を愛すると同じ程

大切な掟は隣人を自分のように愛する

事だと申されました。その実例のいく

つか述べてきましたが、福祉の仕事に

直接携わっている私たちはどうでしょ

うか。障害を持ったご利用者の方々に

自分のように愛しているでしょうか。

マザーテレサが生前よく話してくだ

さる一人の坊やの事を知っている方も

おられる事と思います。

ノーベル平和賞を受けたインドのカル

ルカッタのマザーテレサは道端にゆき

倒れのまま、そこで寝たきりの人たち

の入った小さな瓶を持っていました。坊やのお砂糖の入った瓶です。坊やは私の名前もうまく言えない位でした。でも知っていました。そして大きな愛を持って愛しました。痛いまでに愛したのです。三日間お砂糖なしで過す事は、この小さな坊やにとつてずい分辛

かった事でしょう。でも小さな坊やは大きく愛する事は、どれ位与えるかではなく、どれだけ愛を込めて与える

かである事を教えてくれました。

また私たちが重症心身障害児施設を

始めた頃、ひとりの男の方が硬貨の

入った重い袋を持って私に会いに来ま

した。そしてその方は話されました。

『私はこの施設を先日訪れて重い障害

と一生懸命闘いながら生きています。子

も達の姿をみた時、黙っておられない

気持ちになりました。それで帰ってか

ら現場で働いているうちの者たちに話

をしましたら、その人たちが自分たちも何かさせて欲しいと毎日の働きの中からお金を出し合ってくれました。これだけ集まりましたので、持って参りました。あの子どもさん達のために少しですが使ってください。』そう云って愛の心、福祉の心でいっっぱいの重い硬貨が入った袋を差し出されたのです。なんと有難かつたことでしょう。

私も福祉の道に入って先ず私たちが

お世話させて頂いている障害をもった

人から福祉の心の実践を学びました。

また具体的に述べる時間はありません

でしたが職員の方々からも、社会の多

くの人たちからも美しい福祉の心を学

びました。心から有難いと思います。

では私の拙い話をキリストの母・人

類の愛の母であるマリア様にお捧げし

て終りたいと思います。

むつみの家 新施設移転後、 激動の五年目を迎えて

施設長 福田 雅文

平成二十年四月に新施設に移転後、全職員一丸となって入所、在宅の障害のある方への支援に邁進してきました。五年目を迎えてむつみの家は入所機能を備えた総合発達医療福祉センターとして、大事な基礎作りが出来たのではないかと思います。

在宅に向けた新たな地域への貢献として、諫早市の幼児健康診査や鳥原地区、東彼三町の発達障害の専門相談に医師の派遣、諫早市の発達支援事業に対して臨床心理士・作業療法士・言語聴覚士を、県の事業である外部専門家活用研修事業に対して理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を諫早特別支援学校、鳥原特別支援学校、長崎特別支援学校に派遣しています。県、諫早市や地域からの協力要請が増えていることは、施設が障害のある子どもへの専門支援施設として認識され始めたと思われる。

これまでほぼ固定した入所の利用者の方への支援から在宅支援が加わったことで、外来診療や短期入所さらには地域へ行くことで、より広い視野に立った支援と専門性の高い技術が要求され、どの職場でも質の高いサービスを必要とされ、各分野のスタッフの技術はそれぞれに格段の向上しました。結果として、入所の利用者に対して日々の生活の充実や利用者の生活に適した車椅子の作成や日々のポジションングなど多くの改善がみられ、入所利用者のQOLも確実に高められています。今後は新しい制度の中で医療と福祉の連携に加えて保育所や学校の教育現場との緊密な協力体制をつくることが大事な課題として地域と模索していききたい。

平成二十四年度 新しい取組みの紹介

むつみの家では、みんなのところが豊かになるように…と新しい取組みが始まっています。今回はその取組みの一部を紹介します。

◆その1 『マリアの鐘』

国道よりむつみの家へ向かって行き、正面玄関へと曲がると、右手にあるのがマリアの鐘です。そこには「しあわせBOX」があり、願いごとを書いて、BOXにいれ、マリア

の鐘を鳴らします。散歩コースにもなっていて、天気の良い日には鐘の音が鳴り響いています。

しあわせBOXに集まった願いごとは、ゴミサの時に、みんなでお祈りをします。そして、一番の楽しみが二週間に一度、その中より抽選で一名に『貸しきりタイムチケット』がプレゼントされます。五分間程、

好きな方と過ごせる、施設長をはじめ、病棟内外の職員誰でも指名していいですよ…というチケットです。

いままでに、当選された方は、大好きなスタッフと、話をして2ショットの写真を撮ったり、天気の良い日に散歩にでて、花に囲まれて写真を撮るなどして過ごされました。話をしたり散歩することは、日常的なことではありますが、ほんのわずかな時間でも、自分が指名した人との特別な時間が、こころの豊かさにつながるように、また、人と人がつながっていくよう取組みを広げていけたらと思っています。

パワースポット1
できました!!



パワースポット2
聖心聖堂にも設置



*いいのひろば
中庭に、ほっと一息つけるよう、環境をととのえています。

再出発

園長 木村 トミ



のぞみの家は、平成二十四年一月一日より、障害者支援施設・施設入所支援事業・生活介護事業として、定員九十名で再出発いたしました。

のぞみの家は、現在は女子の利用者だけでなく、今後は男子の方も利用して頂く予定にしております。この七月からショートステイに男子の方にご利用して頂いております。初めは、種々心配しておりましたが、御本人たちもそれなりに、のぞみの家に来ることを楽しみにしておられる様子です。定員が百六名から、九十名になりましたので、経済的には、大変むづかしくなって参りますが、あくまでも、利用者第一の生活を中心にして参りたいと、職員共々頑張っておりますので、どうぞ、ご協力、御支援の程お願い致します。

みさかえの園の創立当初から多くのご保護を注いで下さる聖ヨゼフ様に感謝と讚美をおささげいたします。

新職員の声

これまでとこれからの

生活支援員として



奥村 敏

私は、これまで接客業に従事し、人と接する事がとても素晴らしい事を学びました。そして、現在の私があるのは、自身の力だけではなく、周囲の方々との協力があったからです。今度は、私が人の為に役立ちたいと思い、今に到ります。

のぞみの家で働き始めて丁度一カ月になります。まだわからない事ばかりで、つらい時もありますが、それ以上の喜びがあります。それは利用者みなさんの笑顔と挨拶です。今はまだ拙い介助しかできませんが、笑顔を見たり、元気な挨拶をされると、とても嬉しくて、いつも頑張ろうという気持ちになります。その喜びを糧としてこれからの自身の成長に繋げたいと強くおもいます。

自分の気持ち



のぞみの家 大里 祐司

私はこれまで、高校卒業後、老人の訪問介護を一年間して、その後は工場での製造業とまったく違う職種の仕事をし、施設での障害者の支援員としての経験も、訪問介護では一対一だったので、一度に大勢の方を相手にしたこともありませんでした。自分に障害者の方を本当に支援していいのか不安はありましたが、のぞみの家に就職して一カ月と少しですが、利用者の方と時間をすごすにつれ、利用者の方々の名前や一人の癖などが少しずつですがわかるようになり、最初の不安だった気持ちも薄れ、もっと利用者が楽しんだり、喜んで貰えるように頑張りたいという思いが強くなりました。初めての事ばかりで戸惑う事も多いですし、女性の利用者が大半ですので、男性では支援出来ない事も多々ありますが、自分の出来る事を一生懸命に頑張る事から始めて行き、少しでも利用者の方々の力になれるよう頑張っていきたいとおもいます。

地域との交流

近隣小学校・特別支援学校との交流

あゆみの家福祉相談科

児童指導員 奥平伸理



▲ 交流会風景

地域との交流は、利用者・施設に

とつととても大切なものです。利用

者は楽しい時間が過ごせ、日々の生

活に刺激と変化をもたらします。ま

た、施設にとつては、ここがどのよ

うな所なのか知っていたく良い機

会になるからです。以前はどこか閉

鎖的と思われる来た入所施設ですが、

近年は地域の拠点として、『開かれ

た施設』を目指した施設が増えてい

ます。また、ボランティア活動や趣

味・特技を生かした訪問・定期的な

地域交流等をおこなう個人や団体が

増えた事もそれを後押ししています。

あゆみの家では、諫早市立遠竹小

学校と長崎県立虹の原特別支援学校

みさかえ分校と年に一回ずつ交流会

成四年から、みさかえ分校とは平成
十一年からと、長年に亘り交流を続
けています。この交流には『子ども
達との交流を通して地域の輪を広げ
る事』の目的の他に、子ども達に対
して『福祉教育の機会とする』とい
う目的もあります。

交流会は、あゆみの家が誇るセン

トファミリーバンドの演奏、子ども

達の歌や演奏を中心に、合同演奏や

お互いが触れ合える機会を設けてい

ます。また、遠竹小学校の場合は、

交流会終了後に子ども達に、居室ま

で移動の介助（利用者の車いすを押

す）を体験していただく事もありま

す。子ども達には良い体験になると

共に、最後に握手をして別れるなど、

関係性作りにも一役買っています。

また、バンドメンバーにとつては

毎週練習の成果を発揮する場であり、

交流会間近の練習は普段以上に熱が

入ります。これも利用者にとつて良

い刺激となります。本番に強いメン

バーなので、当日は充分にその成果



車いすの移動介助

を発揮します。そして、一生懸命に

残存機能を使って演奏をする利用者

を見て、「すごい!!」「力強い!!」と

感想を話す子ども達が多く、音楽だ

けでなく演奏する姿から何かを感じ

取っているようです。音楽を通して

お互いの事を分かり合える機会と

なっているのです。

今後もこの交流を継続し、また新

たな交流の機会を増やして行く事で、

利用者の生活の質の向上と、地域に

根ざした『開かれた施設』を目指し

ていきたいと思えます。



ワークスペースあん

今年度も前期が終了し後期に突入です。オリンピック・パラリンピック観戦に声援を送り選手の頑張る姿や言葉からたくさんの仕事に繋がるヒントを得たような気がしています。「周囲の方への感謝の気持ち」「目標に向かう過程の大切さ」「あきらめない心」「夢や希望を持ち続けること」事業所で働くことの意味（目的）に向かう上でとても大切なことだと改めて感じています。

トピックス① 私たちの手芸品が海外進出???(平成24年8月)



★「高校生平和大使」が「高校生1万人署名活動」の署名をスイス・ジュネーブの国連欧州本部に届けに行かれました。その際、交流の中での日本からのお土産品にワークスペースあん手芸品の一つ手作りストラップを持って行かれました。

コメント 少しでも日本らしさを出すために台紙の上下に千代紙を貼り工夫しました。

トピックス② 水曜日もパン販売開始しました～(平成24年4月)



★市内福田町にある「ラングドック」のパン屋さんです。調理パンの種類が豊富で価格もお手頃です。

コメント 月曜日から金曜日まで日替わりで販売中です。お気に入りのパンを探してみませんか。

トピックス③ 遠足は遠足でも、ボランティア遠足を体験!(平成24年5月)



★五月晴れの中、山茶花高原までバス停や山中の空き缶やペットボトル等のゴミ拾いをしながら歩きました。

コメント 軽トラックで7往復分のゴミが集まりました。みなさん、ゴミは持ち帰りましょうね。

トピックス④ 「九十九島水族館海きらら」への日帰り旅行(平成24年6月)



★待ちに待ったバス旅行、いつもよりオシャレして出かけました。巨大な水槽に泳ぐ魚やイルカショーに大はしゃぎでした。

コメント 昼食は円卓を囲んで頂きました。「次は工場見学に行きたい。」そうです。パン工場・ビール工場等々何か情報をお持ちの方、お知らせください。

お知らせ

ハーブティーの販売、始めました。アップルミントの香りに癒されてみませんか。

みなさんいかがお過ごしでしょうか。今回は今年四月から、大幅に改正されたサービス等利用計画作成（ケアプラン）について少し話をしたいと思います。これまでケアプランの作成は特定要件の方に限られていましたが、これからは障害福祉サービスを希望される全ての方（在宅・入所含む）が対象になります。つまり今後はケアプランあつてのサービス受給が基本となり、サービスの利用状況の確認のための定期的なモニタリングが必要になってきます。まさに介護保険に近くなったものになっています。平成二十七年までの経過期間に全ての人に作成するため、現在各市町ごとに優先対象を決め、徐々に進められています。スマイルサポートも徐々にプラン対象者が増えて、今後は在宅の利用者だけでなくグループホームや施設入所者のプランについても検討が必要になってきます。プラン作成やモニタリングには、利用者・家族はもとより、関係事業所みなさんの協力が不可欠です。利用者一人一人の希望する生活に向けて夢あるプランになるようにご協力よろしくお願ひします。

新年度に入り新しい職員を迎えて「笑顔で心にひびくサービスを」をモットーに日々ヘルパー業務に頑張っております。朝に夕に利用者様のお宅へ向かいながら車で走っておりますと「〇〇デイサービス」の看板を掲げた各事業所の送迎車の多いことに気づかされます。新規事業所と思われる「〇〇デイサービス」の車を横目で見ながらいぶん増えているんだな、と感じ入っている今日この頃です。さて、地域移行支援事業の拡大に伴い、当みさかえの園の「ゆめやにじ」のグループホーム、ケアホームが開設されましたのは皆様御承知の通りですね。ひびきでのゆめハウスやにじハウスの主な支援は「移動」「通院」です。「移動」ではお楽しみの買い物、そして「通院」は定期受診等があります。公共交通機関を利用しての支援です。バス、JRの利用に戸惑いましたが利用者様と一緒に勉強しずいぶん慣れてまいりました。慣れてくると便利で一時間に一本のバスでも苦になりません。これからも「バスの時間」を気にしながら（？）利用者様の御希望に添える支援を行っていきたいと思います。

小長井の「ゆめハウス」・高来の「にじハウス」も、段々とホーム生活に慣れていかれ、毎日の料理作りも職員と一緒に当番でやっています。はじめは二人ぐらいずつでしたが、少しずつ一人で作れるようになった人も増えていき嬉しい限りです。平日の職場やデイサービスへの通いのリズムもついてきたので、休日の過ごし方なども楽しむゆとりができました。春の花見や夏のお楽しみ会、冬の忘年会など、それぞれの住まいでの楽しみがひろがっています。先日も地域で暮らす一員として市民大清掃に参加して、地域の皆さんに喜んでもらいました。これからも、地域へ根づいていけるような生活をめざしたいと思います。



牧運動公園での桜花見の様子



にじハウス庭に実ったサクランボ



諫早公園でのウォークラリー



魚荘にて忘年会



ゆめハウス 夏のお楽しみ会

社会福祉法人聖家族会
平成23年度 決算報告

貸借対照表

| 科 目 | | 金 額 (千円) | 科 目 | | 金 額 (千円) |
|------------|----------|------------|-------------|----------------|------------|
| 流動資産 | | 2,001,487 | 流動負債 | | 106,643 |
| 資 固 産 定 | 基本財産 | 3,182,596 | 資 固 産 定 | 長期借入金(整備を含む) | 0 |
| | その他の固定資産 | 4,844,185 | | 引当金 | |
| | | | | その他の固定負債 | |
| | | | 純 資 産 | 基本金 | 670,604 |
| | | | | 積立金 | 4,630,221 |
| | | | | 次期繰越活動収支差額 | 4,620,800 |
| | | | | (うち当期繰越活動収支差額) | 654,106 |
| 合 計 | | 10,028,268 | 合 計 | | 10,028,268 |

事業活動(収支)計算書

| 科 目 | | 金 額 (千円) | 科 目 | | 金 額 (千円) |
|------------|--|------------|----------------|--|------------|
| 人件費支出 | | 2,475,184 | 医療費収入 | | 1,932,540 |
| 減価償却費 | | 230,017 | 国庫補助金等特別積立金取崩額 | | 14,054 |
| その他の事業活動支出 | | 517,739 | その他の事業活動収入 | | 1,901,654 |
| 就労支援事業活動 | | 5,563 | 就労支援事業活動 | | 5,552 |
| 事業活動外支出 | | 2,005,083 | 事業活動外収入 | | 2,029,828 |
| 特別支出 | | 4,534 | 特別収入 | | 8,598 |
| その他積立金積立額 | | 468,386 | その他積立金取崩額 | | 146,386 |
| 次期繰越活動収支差額 | | 4,620,800 | 前期繰越活動収支差額 | | 4,288,694 |
| 合 計 | | 10,327,306 | 合 計 | | 10,327,306 |

各施設の住所

ホームページ

<http://www.misakae.or.jp/>

○社会福祉法人 聖家族会 法人事務局

☎859-0167 ☎0957-34-4520 Fax 0957-34-4521
長崎県諫早市小長井町遠竹2747-6

○みさかえの園第二めぐみの家

☎859-0167 ☎0957-34-3112
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-10

♣みさかえの園サテライトセンター

☎859-0164 長崎県諫早市小長井町牧272-2

○みさかえの園むつみの家・児童発達支援センター

☎859-0164 ☎0957-34-3113
長崎県諫早市小長井町牧570-1

○総合相談室

○相談支援事業所スマイルサポート
☎・Fax 0957-34-9700

○みさかえの園のぞみの家

☎859-0167 ☎0957-34-3114
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-11

○みさかえヘルパーステーションひびき

☎0957-34-3230・Fax 0957-34-3240

○みさかえの園あゆみの家

☎859-0167 ☎0957-34-3115
長崎県諫早市小長井町遠竹2727-3

○グループホーム・ケアホームりん

☎・Fax 0957-34-3200

○ワークスペースあん就労支援・就労継続支援B型事業所

☎0957-34-2371 Fax 0957-34-4521

○ディスプレイスペースあん生活介護・生活訓練事業所

☎・Fax 0957-34-9700 (総合相談室共有)

編集後記

秋のすがすがしい季節となりました。実りの秋・一年の間で一番充実した時期でもあります。みさかえの園も業務が順調に運び、各施設も軌道に乗ってきたのではないかと思います。

法人事務局は創立50周年式典を終え、記念誌発行も間近となり最終仕上げの段階に入っておりますことをお知らせいたします。今年は法人の理念について理事長より記事をいただきましたので、職員の方々はこれを熟読し、心に留めて職務に励んでいただきたいと思います。